



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 412 号

(創刊 1988.12.14)

2024.01.07.

新年のご挨拶

連協の皆さま新年明けましておめでとうございます。3年に渉るコロナ禍も終わりに近づき皆様いかがお過ごしでしょうか。

しかしこの元旦に能登半島地震で被災された方々及び関係者の皆様にはお見舞い申し上げます。

私たちの連協も生まれて36年になります。以下のようなウソ問題が連協の生みの親と言えます。圏央道と計画された横環南の道路予定地を「地方幹線道路予定地」との看板を出してよいと宅地開発事業者に許可したのです。その看板を見て私たちはここに終の棲家を得たのです。

私たちの先輩がこのウソ看板にいきり立ち大反対運動をスタートしました。その後皆様の心強い応援を頂き紆余曲折を経て、未だに事業化を果たさせていません。

公共事業を評価すべき事業評価監視委員会が、国交大臣の国会答弁も無視した事業推進委員会と化しています。大臣は費用対効果(B/C)が1以下は事業を見直すと答弁しましたが昨年初の評価では0.8だったのです。これに見かねてか(と思いたい)昨年末に財務省も国交省は事業評価について「最近の人口減少を考慮せよ」と我々に代わって注文をつけました。

本当の評価は事業地の住民がするべきであり私たちもきちんとした事業評価をし続けましょう。「公共事業を糺す」ことは経験している我々住民の務めです。

今年も連協の活動に益々のご協力をお願いして新年のご挨拶といたします。

(会長 比留間 哲生)

「法令遵守の陳情書」提出

湘南桂台の生活環境を守る会は、5月に続き12月にも上郷公田線建設法令順守の陳情書を横浜市会議長に提出しました。

★陳情書内容要旨

- ①計画交通量 9,500 台/日は、南線へのアクセス道路・環状4号のバイパス機能を持つ幹線道路交通量としては少な過ぎる。
- ②2車線で交差点が多数ある平面交差構造(4種2級)の設計基準交通量は、道路構造令上は8千台/日(1万台×0.8)。当地区の計画交通量は、これを超えているので道路建設見直しをして頂きたい。
- ③当地区は第一種低層住居専用地域で、上郷公田線は当該地域を南北に分断しています。閑静な当地域住民の目の前を昼夜問わず車両が通行し騒音・振動・排ガス・粉塵を浴びる事になります。「地域の環境を壊さず地域分断が少なく、高齢者・環境に配慮し、安全性が高く、地域の秩序を乱さない地域の活性化につながる。」道路建設をお願いします。

★横浜市回答要旨

桂台地区の設計基準交通量について、当該道路と交差する道路の交通量が当該道路の交通量に影響を与えない程度の量であると見込み、設計基準交通量に0.8を乗じる必要はないと判断しており、車線数は変更しません。

環状南線へのアクセス道路、環状4号線を補完する道路、横浜市道として一般の生活に用い供する道路、災害時における緊急輸送路などの役割を担う道路であるので、部分トンネル構造とする計画としています。

(湘南桂台の生活環境を守る会
代表幹事 青木 達喜)

対外活動報告

12/13 外環訴訟第21回(東京地裁 会長)

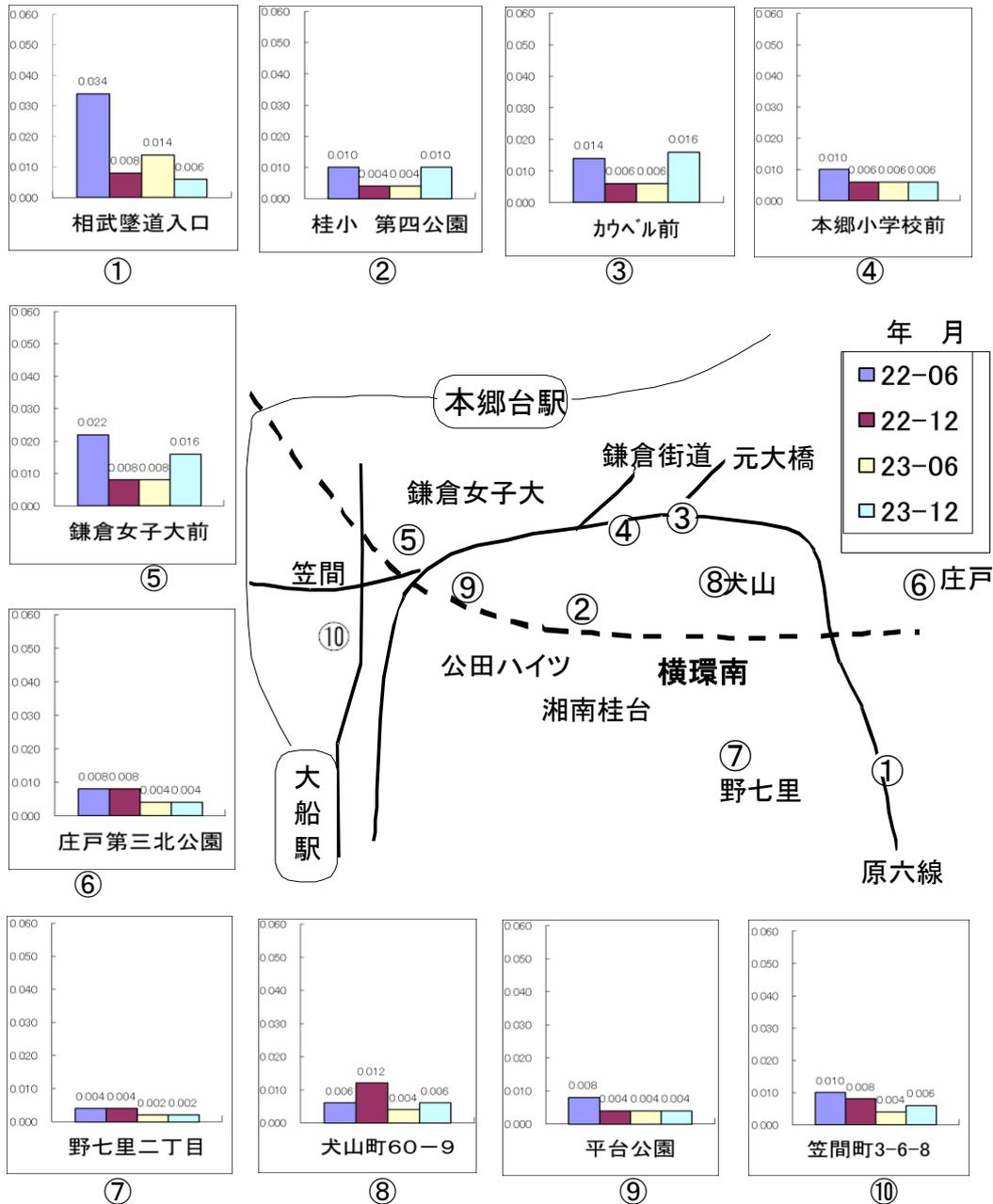
12/15 低周波定例会(zoom 会長)

12/18 高瀬司法書士打合せ(会長)

01/05 低周波定例会(zoom 会長)

令和5年(2023年)12月の定点測定結果まとまる

連協環境部では、毎年6月と12月の2回第一木、金、土曜日を使って栄区内の定められた場所22箇所に二酸化窒素の濃度を測定するカプセルを設置して、所謂定期定点観測を続けております。今回は快晴下での測定でした。以下は主な測定点の値を過去3回分と合わせたグラフです。いずれも環境基準0.060ppm以内でした。



二酸化窒素測定作業

試薬及び試薬付きろ紙は有限会社筑波総研より取り寄せております。

- カプセル準備(木) : カプセルにろ紙をセットし、ひも付きカップ、記録紙と共に配布。
- 測定(木⇒金) : 各団体は担当の各ポイントにカプセルを24時間設置した後回収します。
- 分析(土) : 試薬を加えると、ろ紙の二酸化窒素と反応して赤紫色に着色します。その濃度をエコアナライザーNoxで測定します。ppmでデジタル表示されます。